

- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字さげて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字さげて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

() 月 日 曜日

千尋の滝のすべへて
 岳南中学校 一年 水谷 結愛

千尋の滝に遊歩道ができた。父は
 せがぐように言った。

それまで遠くからしか見られなかつた千尋
 の滝が、遊歩道によつてもっと近くで見られ
 るらしい。

遊歩道開通の日、私と父を含め原集落の人
 は続々とセシモニーに集まつてきた。

この後、来た人たちで実際に遊歩道を歩い

中学校

てみるらしい。

現在の町長さんが、お祝いの言葉をされる。

町々さんが千尋の滝との思い出を語るうちに、

あつという間に時間が過ぎた。まだ話の途中

というところで、大雨が降つてきた。集落の

人は一斉に木の下に隠れる。とつともなく激

しい雨は親の仇のように降り続ける。木の下

に隠れてもしょうがないと感じたのか集落の

人は、続々と帰つていった。私も父と相談し

て、帰ることにした。

(不許複製)

No.

20×20

- 5、読みやすいように、「と」とをしっかりとつけましょう。「と」とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」、しっかりと使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおきない、むだなことばをけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字きけて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字きけて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

一週間後、今度は母と帰省してきた姉と、遊歩道に向かった。まずは今まで見てきた場所から、千尋の滝を見る。ゴゴゴと音を立てる滝は、今にもこちらに迫ってきてそうだ。これより近くで滝を見るなんて、どうなってしまうのかと少しドキドキした。行きは急な下りの階段だ。時々すべりそうになったり、疲れて休みたくなっただが、きれいな自然に元気づけられた。ついにゴール地点、橋にたどり着いた。今

中学校

まで見ていた千尋の滝とは全く違う威厳を放ち、落ちてきているようにも見える水は、こちらにも飛んできそうだ。大きな一枚岩は、これほどかと言っうほどに大きく佇んでいる。その岩を覆うように茂る森は、私たちに手を振っているかのよう揺れていた。

母の口からは自然とその言葉が出てきていた。私たちがしばらくその雄大な自然を見て

No.

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れます。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れます。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことはおきない、むだなことはけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字きけて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字きけて書きはじめ、一つの段落がおわったら行を変えましょう。

（ ） 月 日 曜日

いた。すると姉が、
「今まで見てきたのは、千尋の滝のほんの一部だ。たのかもね」と無意識に放ったその言葉は、私の心に響いた。初めて千尋の滝を見たときのことには覚えていないが、きつとこの時と同じ感動をしたらろう。

最後に記念撮影をして、戻ることにした。行きが下りだったのも、もちろん帰りはこのほりだ。教えきれないほどの階段を下っていく。

中学校

体から流れ出てくる汗は、まさに滝だ。数か月後、花見をしに、父と母と千尋の滝に行つた。千尋の滝の敷地内には、美しい桜が教えきれないほどある。だが、ほとんどの桜が散ってしまった。

私が落ちこんでいると父が、「残った一輪の花を見よう。この一輪だけを見ると、まだ満開みたいだよ」と笑顔で言った。私も父のように手を額縁のようにし、その一輪を見た。前日の雨にも負けず、光に照らされて光る姿を

(不許複製)

20×20

- 5、読みやすいように、と。とをしつかりつけましょう。と。とは、それぞれ一字にかぞえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「」のなかに入れます。「」は、それぞれ一字にかぞえてマスのなかに入れます。
- 7、漢字やかたづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」をしつかり使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことはおきない、むだなことはけずりましょう。



- 1、題目は、一行めの三ばんめか四ばんめのマスから書きましょう。
- 2、学校・学年・組・氏名は二行めに書きましょう。
- 3、文章は三行めから一字書いて書きはじめましょう。
- 4、文章の構想をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字書いて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

見ても負けられない気持ちになっただことを、
今でも覚えている。

私が見た千尋の滝は、まだほんの一部分に
すぎない。だからこそ、そこが千尋の滝の魅
力だと私は感じている。まだ進化を続ける千
尋の滝を、ぜひ、全身で、感じ取ってほしい
と思う。

中学校

- 5、読みやすいように、「。と。」とをしっかりとつけましょう。、と。とは、それぞれ一字にかざえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
- 6、人が話したところは、「。」のなかに入れましょう。「。」は、それぞれ一字にかざえてマスのなかに入れましょう。
- 7、漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「え」、「お」と「を」を、しっかりと使いわけましょう。
- 8、書きおわったら、何回も読みなおし、まちがいをなおして、たりないことばをおきない、むだなことばをけずりましょう。

(不許複製)

